

令和6年度 長野東高等学校 学校評価表

学校教育目標			将来、国際的視野に立つて社会の進展に貢献できる人材の育成に努める。 このために明順で秩序ある学校生活をととして教養を高め、心身を鍛え、自主的で創造性豊かな人間形成を期す。					
重点目標 (中長期的課題)			確かな学力の保障と自立した個の育成をめざす			教員内評価	学校評議委員 の評価	
年度重点目標			1	それぞれの人権が尊重される安心安全な活動環境の中で、生徒のキャリア実現を支援する。	B	B		
			2	より良い人生や社会を考える豊かな感性を育み、実現に向けて知識・情報を応用する力を育てる学びへの転換をはかる。	B	B		
			3	自分の好きなことを探究する中で、新たな知識やスキルを獲得し、「探究活動」のさらなる充実をはかる。	B	B		
			4	部活動や生徒会活動等に、仲間とともに主体的に取り組み、豊かな人間性を育む。	B	A		
具体的目標			具体的方策			教員内評価	学校評議委員 の評価	学校評価に対する学校評議委員・職員・地域アンケート等による意見・提言欄
1	A	「生活のきまり」に沿った生活態度を心がけるように全職員で指導し、高校生としてふさわしい身だしなみに整えさせ、基本的生活習慣の確立を図る。	①	授業を大切にする姿勢を身につけるため登校指導を行い、遅刻の防止に努めると同時に生徒相互や生徒職員の挨拶を習慣づけ、遅刻者を1日平均3.0人未満にする。	B	B	・特定の生徒への対応等全体的には良い方だった。 ・学年によっては遅刻者(特定の数人ですが)が多く、指導が曖昧になってしまっている部分があるかと思います。 ・校則やルール等、今の時代に合わないものは見直すことも必要かと思いますが、それ以前に、一人ひとりが「自分の尺度に合わないからルールを守らない」という風潮が感じられます。 ・遅刻をすることがなぜいけないのか、スマートフォンの使用がどうして限定されているのか、身だしなみを整えるのはどうして必要なのかといった「ルールを守ることの大切さ」の視点からの指導も必要かと思います。 ・SNSの使い方について学ぶ機会を定期的にとっていただき、トラブル防止に今後も尽力いただきたい。	
			②	始業前・昼休み・放課後以外の携帯電話・スマートフォンの使用を禁止した校内規定を生徒自らが遵守するように全職員が歩調を合わせ指導する。またロッカーに鍵を掛け、自己の持ち物や貴重品の管理が徹底できるよう指導し、盗難事件の防止に努めるとともに学習環境の整備にも取り組む。	B	B	・全体で注意を引き続きしていく必要がある。 ・スマートフォンのルールはきまりを守れているとはいえない。(休み時間でもロッカーをあけて見ている。6時限目の移動教室帰りにスマホをさわらないが教室に戻っていく生徒の姿がある。) きまりが今の時代に合っていないのかもしれないが、審議の必要もあると思う。 ・授業中のスマホ使用が目立つ学年があり、私物の管理もずさんな状態になってしまっているところもあるかと思います。	
			③	高校生として相応しい身だしなみを身につけさせるように、全職員が意識を統一して指導に当たる。年8回の頭髪検査を実施し、茶髪・特異な髪型については改善指導する。また気がついた段階で改善指導する。	C	B	・もう一度許容する線から許容しない線を議論して、一致して指導に当たるようにしたい。特に冬の服装は議論すべきだと思う。女子の化粧は何となく見逃してしまっている。マスクをしていると目立たないということもあるが、一致して指導していくべき。 ・校則にあるような化粧やジャージ禁止の指導が曖昧になってしまっている。今は社会の中でも多様性を認める尊重する時代になっているので、見た目に関する校則は今後検討しなくてはならなくなるのかなと感じます。	
	B	全職員が生徒の心の状態に十分に目を配り、不登校の未然防止を図る。	職員間で生徒一人ひとりの状況に関する情報共有を図りながら、3日連続もしくは1ヶ月4日以上欠席者に対して面談を行ったり、アセスや学校生活アンケートなどを活用して、心に悩みを持つ生徒を早期発見し、早期対応していく。	B	A	・特性を持った生徒への支援会議等、できることはやっているといます。		
	C	自転車運転において、社会の一員として交通法規が遵守できるよう指導する。	自転車通学者全員が自転車保険に加入し、交通法規に則った安全な自転車運転ができるように、各学年で交通安全講習を実施するとともに春と秋の交通安全週間にあわせて安全指導を実施する。また、定期的に自転車の整備点検を実施し、事故件数年間20件未満を目指す。また、ヘルメットの着用を促す。	B	B	・事故は「0」になるように継続して呼びかけていきます。 ・交通時の防止と安全確保のため、自転車の安全な乗り方とヘルメットの着用について、今後もご指導をお願いします。		
	D	「いじめ」が人権を侵害する行為であること等を啓蒙し、「いじめ」について考える取り組みを学校生活の様々な場面において日常的に行い、予防・根絶に努力する。	日々の授業や特別活動など様々な場面において自己有用感や人権感覚を育む教育活動を行う。また、アンケート調査を年3回実施(学期末考査前)し、「いじめ」の有無の把握に努める。保護者に対しても1学期保護者懇談の際にアンケート用紙を配布し、把握に努める。また「いじめ」が確認された場合は、「いじめ対応マニュアル」に沿って、各部署で連携をとりながら、臨機応変に対応していく。	B	B	・誰もが他人の痛みを想像できる人になってほしいです。		
2・3	E	授業の充実を図るとともに、生徒の家庭学習を習慣にさせる。	①	進路実現の基本は授業であることを理解させ、集中して授業に取り組む姿勢をつくる。また、予習・復習をして授業に臨むことを促し、家庭学習習慣を身につけさせる。また、自学自習の大切さを理解させ、学習室や多目的教室の利用を促す。	B	B	・定期考査前の生徒の学習時間を保障する取組が必要。例えば考査前一週間の放課後学習(クラスごと)。 ・家庭学習時間、明らかにダウンしている。1、2年生の6〜7割が平日の家庭学習時間が0〜30分という状況。家庭学習を増やす取組が必要。	
			②	受験に向けた学習内容を意識し、早くから準備に取り組むための指針を示す。また国公立大学を目指す生徒には、「6教科8科目」の意識付けと学習集団作りもさせる。	B	A	・学習への意欲というか、知的好奇心が以前より低下している気がします。 ・今後「探究活動」を学校として推進していけると思いますが、生徒さんたちの学習意欲の低下と探究活動が乖離しないようにしていただきたいです。	
			③	校内授業公開などを通じて授業の方法を研究しあうとともに、授業アンケートを実施し自らの授業を省みてさらなる向上をはかる。	B	B	・もっと教員同士が関われる雰囲気が出てくるとうれしくなと思っています。 ・探究の授業を充実化するため、「個々の教員の専門性を活かした講座」や「複数教科を横断した(コラボした)講座」等を設定しても良いかもしれません。	
	F	補習授業・模擬試験等への積極的参加を促す。	①	長期休業中や放課後の補習を充実させ、多くの生徒の参加を呼びかける。	B	B		
			②	小論文・面接指導については、必要に応じて個別指導を行い、指導を有効なものとする。	B	B	・入試において探究的スライド提出など多様化しているの、その担当者もつけてほしい。 ・現状でできることはやっているといます。 ・総合型選抜受験者が増えたとのことなので、3年生・進路指導の先生方がとても大変だったと思います。もう少し職員全体で割り振れたら負担も偏らないかと思っています。	
			③	進学模試・公務員模試等を実施し、1・2年生は生徒全員、3年生は必要とする生徒全員が受験するように促す。また模試の解説講座等機会をとらえて様々な学習を有効に活用していく。	B	B		
	G	朝の読書の時間を設け、読書の習慣を定着させる。	③	全職員で読書指導に取り組む。図書館の積極的な利用を促し、読書を奨励する。	C	B	・探究活動での利用を積極的に呼びかける(学年、クラスで)。 ・SHRの時間が短くなり、朝読の時間が取れない。 ・3年特編で読書している姿は見ましたが、それ以外は本当に読書は少ないと思います。 ・朝読書は今後実施困難か。せめて年に1週間とか2週間とか「朝読週間」のようなことを設けるのはどうか。 ・教員の方の評価を見た限りでは、活動がうまくいっていない印象です。読書の時間を設定した当初の目的を再確認し、それに見合った活動なのかどうかを検討することも必要なのかなと思いました。	
			①	進路講演会・就業体験等を行うことによって、望ましい職業意識を育成する。また進学・就職を目指す生徒が自己の将来の生き方や具体的な進路を考えさせるため、キャリア教育を推進する。	B	B		

	H	生徒個々に応じた進路実現の支援をし、進路情報の発信に努める。	②	大学・短大・専門学校で学校見学や公開授業への参加を促す。 また、看護医療系・福祉系希望者には医療現場体験をさせる。	B		B	
			③	就業体験・講演会等で就職希望者の意識を高めさせ、内定率100%を目指す。	B		B	
4	I	生徒会活動やボランティア活動等を通して地域の方々との交流を持ち、学校と地域との連携を図る。また、校内の美化はもちろんのこと、学校周辺を含め地域の方々と協力して環境整備を行えるような活動をする。	①	新しい企画を入れ委員会の活性化を図り、委員の自覚と意識を高める。特に文化祭・クスマッチ等の生徒会主体の行事では生徒自ら企画・運営・実践が出来るよう支援する。また、それらの取組みを通して、コミュニケーション能力や人間関係形成力を育てていく。	B		A	・生徒会係としてももっと生徒と教員同士と連携を図り、生徒会活動から学校に良い風が吹かせられるようにしていきます。
			②	校外ボランティアセンターや諸団体と連携をし、適切な情報収集を行うとともに、活動内容の周知を図る。また、生徒が安全に活動に取り組むことができる校内支援体制について研究する。活動を通して地域や人の大切さを学ばせる。	B		B	・来年はデイスサービスへのボランティアの周知を広く図りたい。 ・例年通りにはボランティア活動を行えた。次年度は全校生徒への意識を高める活動も考えたい。 ・長野マラソンやびんずる等大きなイベントのボランティアに携わっていて、とても良い経験ができたと思います。今後も続けてほしいです。 ・保育園児との交流会やボランティア活動での行事お手伝いなど、ひとりひとりが積極的に参加していた。 また、園児に対する優しさも感じられた。
			③	日常の清掃活動を通して、生徒一人ひとりの校内美化の意識を高める。さらに、清美委員会による定期的な美化活動や各学年毎の環境美化作業による校内美化を図る。また清掃用具の定期的点検と清掃用具庫の整理・管理を行う。	B	B	B	・環境美化作業(特に1年)はよくやっていたが、全体としては生徒の美化意識が低下していると感じる。 ・全体として清掃にまじめに取り組んでいるが、細かいところへの気付きや率先しての活動、意識を高めることをさらに考えていきたい。 ・定期的に行われている学年別の校内清掃(LHR)への取組みはとても良い。(通常清掃も良好です) ・ほんとうにすごく掃除をしている高校生たちだと思います。初めて見たときびっくりしました。
	J	部活動の活性化を図る。	①	集団的・自主的に活動を行う事により、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、協調性を学び活動の楽しさや喜びを味わい、充実した学校生活を送れるように支援する。	B		A	・放課後に満足な指導ができないことが多い。会議の頻度を減らしたり短縮化を進めていくべき。 ・自分の歴任校の中では「職員の部活動への熱量の平均値」が最も高い学校だと感じる。 ・日頃より、部活動の指導に熱心に取り組んでおられる先生方に感謝いたします。ありがとうございます。 ・学校のきずなネットで何をやっているのかよくわかりました。
			②	各クラブ毎の具体的な目標を設定するとともに、昨年より多く県大会以上の参加ができるように努力する。	B		A	・結果も出ていると思います。 ・健康管理にはくれぐれも気を付けていただき、一人ひとりが自分の目的に向かって、良い成果が上げられるよう応援しています。 ・学校のきずなネットで何をやっているのかよくわかりました。
	全	K		学校公開・学校説明会・体験入学を実施し、保護者・地域の方々・中学生の参加者増を目指す。また広報誌しののめーるを発行し、中学校への配布、地域への回覧を行う。HPの充実及び更新回数の増加をはかり最新ニュースを掲載する。中学校訪問を実施し、学校生活の様子や実績などを報告するとともに、アドミッションポリシー等の情報を提供する。	B		B	・保護者アンケートに書かれている内容など、地域に信頼される学校を目指すなら、保護者や生徒が学校運営について意見を述べ、議論できる場を公に設ける必要があると思います。 ・再編へ向け、本校の強みをより強くアピール(あるいは新たに作り出す)ことが急務と考える。
		L	①	大地震等の対応を含めた防災体制を確認し、休日や勤務時間外の防災体制の確立を図る。	B		B	
			②	一斉連絡網への生徒・職員全員の加入により、学校からの情報を生徒・保護者・職員により早くより正確に伝える体制を整える。個人情報漏洩・乗損等の防止を検討し、安全確保に努め、危機管理体制を整備し、職員が的確に対応し、機能できる意識を育てる。	B	B	B	
	M	教職員の綱紀の肅正に万全を期し、服務規律の確保に努める。		常に交通法規を遵守し、交通事故の防止に努める。生徒へのセクシャルハラスメント及びいじめつな行為が発生することのないよう厳に注意をし、また体罰はいかなる理由があろうとも行わない。そのために各種研修会を企画する。	B		B	・内容に反論することはないが、研修の存在は多忙感を増やしている気がする。 ・知っている限り、非遵行はないと思いますが、気が緩まぬように自分でも引き締めたいです。